

授業改善推進プラン 【音楽科】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

<関心・意欲・態度>

- ・音楽活動に意欲的に取り組む児童は多い。自らの思いや意図をもって積極的に工夫したり、音楽活動を通してその思いや意図を膨らませたりすることは不十分である。

<音楽表現の創意工夫>

- ・楽曲のよさを感じ取って曲想を生かし、自らの思いや意図を取り入れながら表現の工夫をする力は充分ではない。

<音楽表現の技能>

- ・思いや意図を十分に表現できる技能を身につけさせたい。共通事項を習得し、それを自らの音楽表現に活用する力は不十分である。

<鑑賞の能力>

- 音楽を形づくっている要素や音楽の仕組みを聴き取り、そこから楽曲の良さや曲想を個々に感じとり、自分の言葉にして人に伝えて、児童同士で共有する力が十分でない。



2 授業改善の方策

<関心・意欲・態度>

- ・授業の導入、学習活動過程の評価活動の充実を図る。
- ・目的をもった授業の計画を立て、一時間ごとの目標を明確にした授業を行う。
- ・児童一人一人の音や声に対して、音楽的な表現での確かな言葉かけを行う。
- ・1時間の目標や活動の見通しを「今日のメニュー」として明確に児童に示す。

<音楽表現の創意工夫>

- ・「どのように表現したいのか」等の思いや意図を引き出す発問を工夫し、一人一人が考えられる場の設定をしたり友達と交流したりして、音楽づくり活動を充実させる。
- ・楽曲の作られた背景や、歌詞の内容を考える時間を作りイメージをもたせる。

<音楽表現の技能>

- ・基本的な奏法・コツを示し、常に音色とイメージの関わりをもたせながら奏法を身に付けることができるようにする。
- ・共通事項を適宜授業に取り入れ、表現の技能を身につけ活用する活動を行う。

<鑑賞の能力>

- ・音楽を形づくっている要素や音楽の仕組み等、聴き取らせたい項目をしぼりそれに合わせた鑑賞のポイントを明確に示す。楽曲の印象を大切にして、楽曲の背景等イメージを深める発問を行う。
- 言語活動の充実
 - ・思考・判断したことや工夫したこと、感じ取ったことを言葉で表す活動を行うことで、児童自らが確認して友達と伝え合いながら学習を進められるようにする。
 - ・楽曲や演奏の楽しさに気が付いたり、楽曲の特徴や演奏のよさに気が付き理解したりする力を高め、自分の言葉で現すことができるような授業を推進していく。



3 活用につながる指導

- 新しい楽曲に取り組む際は、既習事項を思い出して表現や鑑賞に活用するように習慣づける。共通事項は適宜取り扱い、全ての音楽活動の中で自然と活用できるようにする。
- 児童同士の学びに発展するようなグループ活動を取り入れる。
- スモールステップを積み重ねながら、市民パレードや合唱活動、音楽委員会の演奏活動等、発表を通して学習の成果を発表して響き合う心地よさを感じ取ることができるようにする。